



水戸市男女平等参画基本条例の啓発と
男女平等参画社会の形成と促進のために

WAVE 第27号

発行日：令和8年6月1日
発行：特定非営利活動法人
M・I・T・O 21
〒310-0065 水戸市八幡町2-1
発行責任者：兼子 千恵子

ごあいさつ

理事長 兼子 千恵子



去る5月23日、第18回通常総会にご参加の皆さんの活発なご意見のもと無事終了いたしました。今後の活動計画も承認され皆さんのご協力をいただきながら進めてまいりたいと存じます。

ひと昔前ならばゴールデンウィーク明けは、青葉若葉のまぶしい頃など時節のご挨拶をしておりましたが、今年は連日の猛暑に気をつけてと申し上げなければなりません。気候変動により暑い季節が年々早く長くなってきてしまいました。スーパーエルニーニョの発生により、地球はますます高温化へ、私たちの生活の中へも「猛暑、台風、大雨」がいつ押し寄せてくるか 脅威でしかありません。

そして、世界に目を向けると、ウクライナとロシア、イランとアメリカ・イスラエルなど、争いは収まるどころかますます激化していております。

また、日常生活ではそれらの影響もあり、とどまることを知らない物価の上昇、石油危機では日常が壊滅状態になる恐れさえやってきそうです。加えて、今一番直面しているのが避けて通れない超高齢化の問題です。戦後ベビーブームの世代はとつと後に後期高齢者に、今やその子供たちが高齢者といわれる世代に差し掛かっています。

当然、私たちの組織も深刻です。ちなみに周りを見渡してもどちら様もご同様に、傷をなめあっている状況です。私たちが頑張りすぎたのかなと、自虐的つぶやきも聞こえてきます。そういう先行き不安な話は数え上げたらきりがありませんが、私たちはそれらに抗わないと前に進んでいけないのです。

こんな状況下ではありますが、今年は水戸市男女平等参画基本条例施行25周年になります。あの大きなうねりの中開催された「日本女性会議2001みと」の最終日に施行された条例。そして採択された「水戸宣言」は、毎年議案書にも印刷してお届けしております。私たちはこの宣言を実践するために活動しようと結成された目的を確認するために掲載しているのです。

ちなみに、今年度のヒューマンライフシンポジウムは、条例施行25周年を記念し、水戸出身であり、元国連女性差別撤廃委員会委員長、現在市川房枝記念会館理事長の林陽子先生の記念講演を中心に進めていきたいと計画をおりますので、皆様のご協力をお願いいたします。

(2026.5.23 NPO 法人 M・I・T・O21 総会挨拶から)

目次

- | | |
|--|---|
| 1. ごあいさつ・・・・・・・・・・ 1頁 | 3. 水戸市議女性議員との意見交換会・・・ 3頁 |
| 2. ヒューマンライフシンポジウム 2025
高校生ワークショップ報告
アンケートから・・・・・・・・ 2頁 | 4. Mitorio プラス One テツ・アートプラザ
活動報告、編集後記・・・ 4頁 |

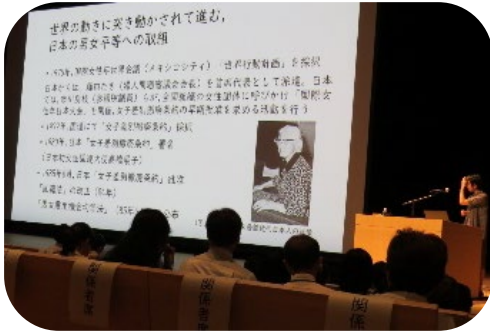
ヒューマンライフシンポジウム 2025

～未来へつなぐメッセージ～

日時:令和7年9月27日(土) 場所:水戸市民会館ユードムホール

第1部 基調講演 ジェンダー平等な社会をつくるために

ー過去・現在、そして未来に向けて、私たちができることー



ランドセルの選び方を例に刷り込まれた男女の意識の変化は抑圧された時代から敗戦後世界のフェミニズム、ウーマンリブなどから刺激受けてきた。平和の希求と真の平等を訴える女性解放運動、婦人参政権獲得、普通選挙、政治参画への道に進む。女性が発言、行動することで変わる社会へ進もう

私たちは未来に向けて～



講師:茨城大学
人文社会科学野
長田華子准教授

第2部 高校生が考えるジェンダー平等

「どのようにしたらジェンダー平等な社会を実現できるのか」についてワークショップで考えた意見や提案を発表しました。



高校生ワークショップ
発表Bチーム

① 「制服の偏見をなくすには～誰もが自由に制服を選択できる社会～」

② 「表現する性」性別や経験にとらわれず、ありのままに受け入れてもらえる

社会の実現を目指すテーマにして分析、モヤモヤをどう変えていくか!! ○○××
・ジェンダーについて触れる機会を増やす。・価値観や偏見を変えるための仕組みが大切。
・小さな意識の変化が平等につながる。高校生たちは他の人を尊重し、選択の自由を認め、自分の意識・行動を変えますと宣言して発表を終えた。

参加者 160名 アンケート結果 n=72 紙 46人、電子 25人

①初めての参加 39人 以前にも参加 33人 ②参加の情報 知人 30 ちらし 19 H・P11 学校内 8 広報みと、SNS 各 5 その他 4 ③シンポジウム参加のきっかけ 高校生の発表に興味 36 ジェンダー平等、男女平等参画を考える 27 テーマに興味 16 講師に興味 13 その他 9 ④講演の内容 大変良かった 39 良かった 25 ふつう 5 わかりにくい 1 その他 3 ⑤シンポジウムに参加して男女平等参画について感じたことは 新たな気づき 46 有用な情報が得られた 29 考え方に变化 12 すぐに自分にできることを行動しよう 4 わからない 3 その他 4 ⑥どの分野のシンポジウムに参加してみたいか(複数回答) ワークライフシンポジウム 33 女性の活躍 17 家事育児介護の男女平等参画 12 性的マイノリティ 9 リプロダクティブヘルスライツ 5 その他 4 未回答 8 ⑦性別(自認する性別)女性 43 男性 21 それ以外 2 回答しない 5 未回答 1 ⑧年代 50代 16 40代、70代以上各 13 10代以下 11 20代 7 30代、60代各 4 回答しない 2 未回答 2



受付の会員各々

企画運営を任されている本法人として 300名収容のユードムホールの会場をいっぱいにならなかったことは残念でした。男女平等参画社会推進団体のメンバーも数える程、ジェンダー平等はまだまだと感じている我々としては、努力不足が否めない。情報発信方法、広報活動も若者世代のツールを会得しなくてはなりません。

水戸市議会女性議員との意見交換会

日時：令和 8 年 2 月 16 日(月)場所：水戸市男女平等参画センター

2001 年 9 月「水戸市男女平等参画基本法」が制定され 25 年、施行日の 9 月 28 日は日本女性会議 2001 の開催日でした。水戸市は毎年 9 月を記念して男女平等参画推進月間としています。今年の月間のメイン行事であるヒューマンライフシンポジウムは、条例制定 25 周年を記念しての開催となります。

25 周年記念事業を前に私たちは男女平等参画センター登録団体と水戸市議会女性議員と意見交換の場を設けたいと考えておりましたが、袴塚市議会議長や男女平等参画課のはからいで 3 月議会前に男女平等参画センターで開催することができました。

出席した議員は鈴木副議長をはじめ滑川議員、森議員、田尻議員の 4 名です。市民側として登録 10 団体の代表が参加し、兼子理事長のあいさつに続き議長メッセージを代読、出席者全員が自己紹介して、第一部の「男女平等参画基本条例ができるまで」の基調報告となりました。

条例がなぜ必要だったのか、なぜ議員提案としたのか、制定までの経緯について、提案者の一人である私は「女性史レポート」に執筆した資料をもとに説明をしました。特に条例名の共同ではなく平等と



市議と市民が意見交換
男女平等参画センターにて

明記した理由に反対する議員が多く、長時間の議案質疑があり、委員会では

廃案が可能な時間の 5 分前に可決という産みの苦しみから採択された話をいたしました。25 年の歳月が流れ、市長は『男女平等は水戸の文化』と発言するなど市は男女平等施策が推進いたしました。

一方、世界経済フォーラム 2026 年度の男女格差ジェンダーギャップ指数は、世界の中で日本の総合順位は 118 位、先進国の中では最も低く、その原因は政治分野などの政策決定の場における女性の比率が低いことにあります。水戸市議会は女性議員 8 人となり、比率は 28.6%と県内では上位ですが、市民調査による数値から地域や家庭での固定的な役割分担意識はまだまだ解消されず、ジェンダーギャップが根強く残っているのが現状です。そうした実情を踏まえ、第二部の問題提起をしました。

第二部の意見交換会では出席者から「各個人が生きづらさを抱えている」「県の女性の起業家は全国で上位、審議会の女性比率も 50%ですが水戸市はまだ低いのでロールモデルとなってほしい」「男女雇用機会均法ができ、職場では女性も残業をしなければならないため、親元に引っ越しをした例がある」などの発言がありました。

議員からは「女性が少なく声が出しづらい職場にいた。小さな困難でも少しずつ伝えてほしい」

「職場、家庭では女性は強くなったがジェンダー平等の意識はまだ低い」「現場の実態を受け止めていきたい」「LGBT の人たちは男女平等の後を追っている。自分を変えられない、生きづらさを感じており現状に向き合うのにはダイバーシティ、多様性などで置き換えられるとあやふやになってしまう」「ジェンダー平等に向かって頑張りたい」など各議員から卒直な意見が寄せられました。

条例制定に携わった男性元市議会議員から「議会に女性議員がいるということは変革と抑止力となるので期待したい」と述べました。初めての女性議員との意見交換会でしたがジェンダーギャップという共通の認識があると感じながら、時間の経過も忘れるぐらいの大きな成果が得られました。

今後も水戸市の男女平等参画社会の構築にむけ、水戸市議会女性議員、そして男性議員の皆様とも連携をしたいと願っております。 田山知賀子(元市議会議員・本会理事)

Mitorio プラス One

水戸市中心街にまた新しい文化交流の場が開設されました。カフェとコミュニティスペースを共有する「クヴェレ美術館」です。

明治42年(1909)旧川崎銀行水戸支店として開設された、数少ない風格のある洋風建築で、戦災後も三菱銀行水戸支店として、市民の生活に利用されていました。この趣のある姿が、今回修復され、文化施設として注目される場になりました。「クヴェレ美術館」なじみのない名称ですが、ドイツ語で“泉”と訳され、水戸の街泉町の名を守り続けます。街に残る歴史を顧みつつ、新しい繋がりを生み出す場になることでしょう。今年の事業企画の最後に計らずも美術館探訪が加わり参加しました。館内は静寂と息をのむばかりの作品が展示されており、目を凝らして至福の時間になりました。

M・I・T・O21は2001年「水戸市男女平等参画推進基本条例」に基づき、指針に沿いながら課題をさぐり活動を続けて25年になりました。この歳月は社会情勢も意識の変わりようも大きく、直面する課題は多様で、何を柱に取り上げ推進していくか、次の世代に繋げ改善に向かえるか問答、思考の歳月だったかと思われれます。しかし最近Mitorioを核に人々の行動の変化が感じられます。イベント・コンサートホール・ショッピング等生活の場では平等意識が醸成され、社会性も身に付き、文化施設活用から共感が生まれ行動に結びつつあることを実感しています。まだまだ条例の目指すジェンダー平等には至っているとは思えませんが、意識が変われば“見えなかった事も見えてくる”視野の広がり行動に表れて来るでしょう。テツ・アートプラザの文化施設活用が市民思考・行動にプラスされ、住み良い街に成長していくと実感した実り多い鑑賞の時間でした。(2026.3.24 小林弘子:記)

☆男女平等参画推進のための活動報告☆

理事会①4月21日(月) ②7月7日(月) ③10月6日(月) ④11月10日(月)

⑤令和8年2月14日(土) ⑥3月9日(月)ヒューマンライフシンポジウム
事業企画検討のための会議、自主事業の企画検討、調整

全体会①8月5日(火)ヒューマンライフシンポジウムチラシ配布作業

②12月22日(月)ヒューマンライフシンポジウム2025反省会

③令和8年3月24日(火)テツ・アートプラザ「クヴェレ美術館」見学

自主事業 ①佐川文庫「次世代育成コンサート」7月～3月音楽鑑賞

②2月16日((月))水戸市議・女性議員と登録団体意見交換会開催

その他、男女平等参画課主催の意見交換会出席、デジタル生成AI講座参加、

水戸女性会議視察研修「牛久市交通政策と女性団体との交流」参加

茨城県女性活躍働き方応援シンポジウム：前厚生労働事務次官村木厚子氏講演

県・男女共同参画の視点からの防災講演会「誰一人取り残さない地域防災」

男女共同参画地域みらいねっと代表理事小山内世喜子氏講演・参加



美術鑑賞

水戸女性会議の
正副会長を務めた
25年前からの
つながりは今でも
つよく、
しなやかに!!

編集後記：令和7年度から水戸市役所内に移転された男女平等参画センターを拠点に活動が進められ、ヒューマンライフシンポジウム2025は限られた会員で乗り切りました。若年層の参加を積極的に進めることとAIを駆使することが時代の流れです。私たちは男女平等参画社会の推進を活動理念に長く活動に携わってまいりましたが、25年を節目にバトンを渡す時期が来たという感を持ちます。ジェンダーギャップを解消するために、市議会議員とも連携を図り、市民が日本女性会議2001の熱気あふれる機運を思い出し、次世代の作る水戸の未来に期待をかけ『ヒューマンライフシンポジウム2026』盛り上げていきたい。事務局 Utsu